

16. 宇治発電所は日本最大の火薬や兵器製造を支えた

フェイスブック掲載日 2021/9/18

宇治川電気株式会社編「第1期水力電気事業沿革誌」は国立国会図書館デジタルコレクションから見るることができる。

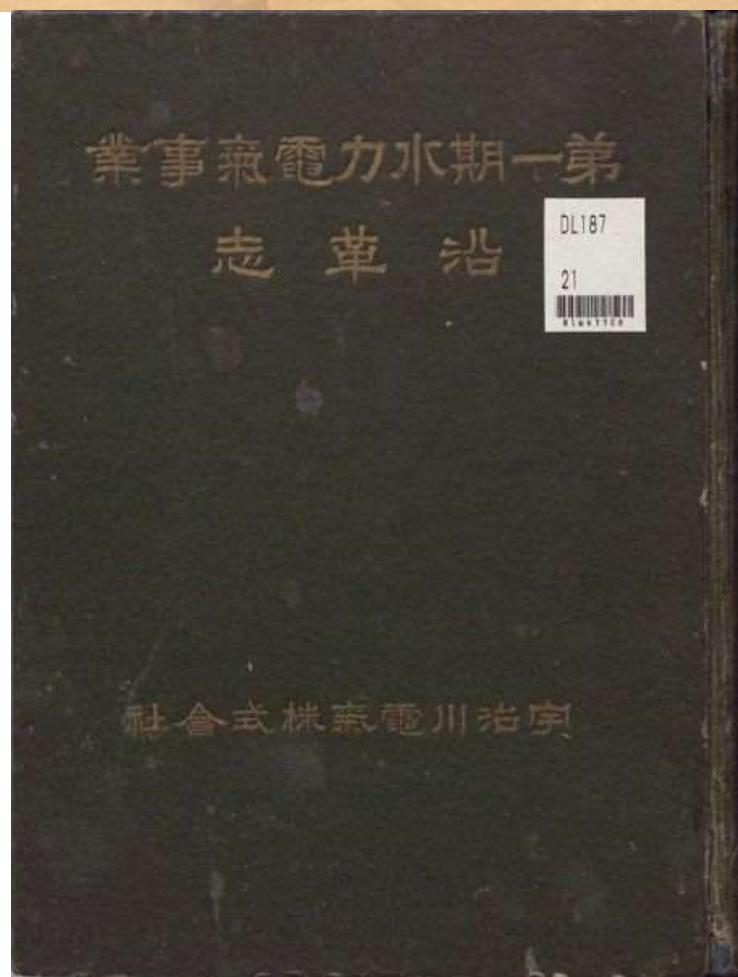
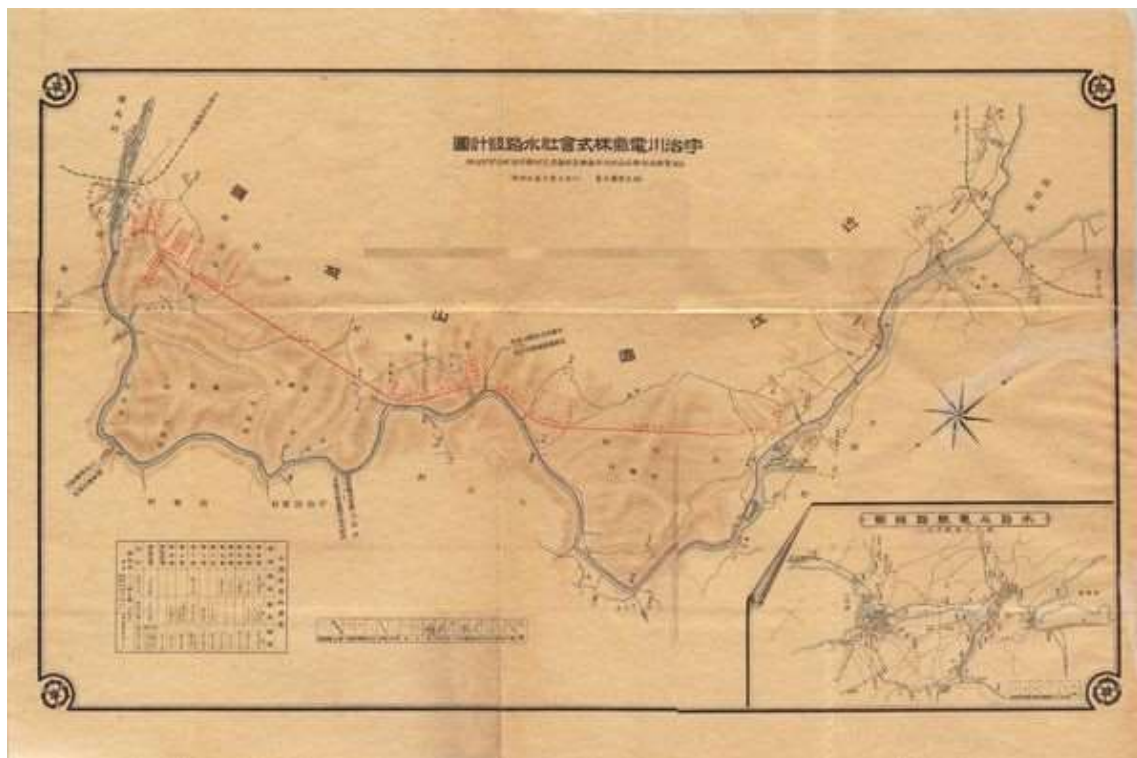
宇治川電気株式会社(宇治電)は1906(明治39)年に創立。「第1期水力電気事業」は琵琶湖から唯一流れる瀬田川から取水し、延長約11kmの導水路を通して宇治発電所まで送水した。これが完成した1913(大正2)年当時としては、日本最大の水力発電所であり、その電力は京都、大阪地域へ供給された。

この「沿革誌」には発電所完成までの紆余曲折した経過が記されている。明治20年代後半から30年代にかけ、全国的に水力発電事業が軌道に乗り始めたころ、宇治川でも1894(明治27)年に京都の有志による発電用水路の掘削を出願、翌年には大阪、滋賀、東京の有力者からそれぞれ同様の出願があり、競願が処理しきれなかった内務省はこれらをすべて却下し、出願者に合同を勧めた。出願者の協議が成立して一本化した計画が提出されたのは1902(明治35)年、許可が下りたのは1906(明治39)年だった。これに基づき、宇治発電所の第1期水路工事が1908(明治41)年12月に開始された。

さて、内務省のこの処分の背景に陸軍省総務長官中村雄次郎と内務省総務長官大森鍾一との内牒があったことは見逃せない。1901(明治34)年6月、「宇治水力電気発動所設置に関する件」という件名で、宇治発電所の概要が両省の間で確認されており、国立公文書館アジア歴史資料センターで見ることができる。

完成した宇治発電所は27,630kWの出力で運転を開始し、当時、関西地方で最大と言われた蹴上発電所4,800kWの6倍近い規模であった。

宇治市史を始め、多くの書物には、「この電力は宇治市内に電灯をともし、京阪電車を動かし、ユニチカなど多くの工場を誘致して、宇治市の近代化と発展に寄与し続けた。」と書かれている。もちろんそうだが、この電力こそが石炭火力に頼っていた宇治火薬製造所や同製造所を統括する大阪砲兵工廠の動力を電気に切り替え、日本最大の火薬や兵器製造を支えていたという事実は決して忘れてはならない。



- 一 工事工程圖表
- 二 水路工事主要工程内譯表
- 三 第一號隧道工事工程年表
- 四 第七號隧道工事工程年表
- 五 水路工事主要材料使用數一覽表

第一期水力電氣事業沿革志

第一章 會社設立ノ沿革

第一節 三派出願並ニ計畫ノ内容

本事業全邊ノ設備ハ分テ新コト二十餘年前ニ在リ即チ明治二十七年八月二十日京都ノ高木文平氏外三名ヨリ京都府宇治郡池尾村ヨリ同郡志津川北ノ間ニ於テ淀川沿岸ニ發電用水路ヲ開鑿セシコトヲ京都府知事ニ出願シテアテ始トシ然レモ本願者ハ一且知事ニ呈シテ翌二十八年二月二十三日再度其節ニ提出セラレタガ時恰カキ大阪ノ有志者間ニ於テ同様ノ出願ヲ金屬スル者アリシヲ以テ之ニ合稱シ組織ス同年四月二十日並賀ノ小泉新時氏外三名ヨリ湖田川沿岸ニ發電用水路開鑿ノ許可ヲ並賀縣知事ニ出願シテハ高木文平氏等ト協同スルコトヲナシ此ニ明治二十九年六月五日發起人總數九十九名ノ届出ヲナシ同年九月二日ヲ以テ改メテ資本金ヲ壹千萬圓トシテ治水電氣株式會社ヲ組織シ並賀縣池尾郡石山村大字南郷ヲ總局トシ京都府宇治郡宇治村ニ至ル迄長三里ノ間ニ水路開鑿ノ許可ヲ京都府知事及並賀縣知事ニ出願シタリ此ニ於テ當初京都方面ノ有志者ニ依リテ計畫セラレタリ水力電氣事業ハ此ニ京阪及並賀ノ二府一縣有志者ノ合同出願トナシ